

「ひと」は、主に市井の人の知られていない活動・業績（地道な研究、ユニークな取り組み、ひとすじに活動を継続等）にスポットを当てるのが大きなねらいですが、時々話題の人なども登場します。ショートストーリーに仕立てているところが大きな特徴です。翌日の「ひと」で誰を取り上げるかを予想することも楽しみの1つです。

例えば、プロ野球のパ・リーグ優勝を果たした翌日（11年10月2日）の「ひと」欄では「内川聖一外野手」を取り上げていました。毎日新聞も内川選手、読売新聞は小久保選手でした。朝日新聞は「移籍1年目でソフトバンク リーグ優勝に巧打で貢献」という見出しでしたが、毎日新聞は「高打率でソフトバンクのパ・リーグ連覇に貢献」となっていました。どちらの見出しがよいか、子どもたちに理由を付けて発表させてもよいですし、自分ならどう付けるか考えさせることも面白いと思います。

全国高等学校野球選手権大会（いわゆる夏の甲子園）の決勝戦の翌日、全国紙はみな「ひと」欄で優勝校の人を取り上げます。かつては、優勝投手、一番活躍した選手、キャプテンが多かったのですが、去年は朝日・毎日・読売ともに日大三高の監督でした。連覇でもなく、最多優勝監督でもないのに、三紙ともなぜ取り上げたのか。記事を読んで考えてみる価値があります。